

海岸漂着物等対策に関する 2025 年度の実施状況について

1 海岸漂着物等の回収・処理

環境省の地域環境保全対策費補助金の海岸漂着物等地域対策推進事業を用いて、市町村等が実施する海岸漂着物等の回収・処理事業に要する費用に対し、補助金[※]を交付し、円滑な回収・処理を推進した。

※【補助率】通常：7/10、離島振興法に基づき指定された離島（県内では佐久島、篠島、日間賀島）：9/10。また、漁業者等がボランティアにより回収した漂流ごみ及び海底ごみの処理については、定額（上限 1,000 万円、10/10）。

海岸漂着物等地域対策推進事業【資源循環推進課】【資料 1 - 2】

他主体（市町村等）の事業も含めて把握

	全体事業費	補助額	回収対象	回収処理量
2019 年度	36,488 千円	26,578 千円	漂着ごみ＋漂流ごみ	459.5 t
2020 年度	39,218 千円	28,719 千円	漂着ごみ＋漂流ごみ	442.7 t
2021 年度	40,899 千円	30,163 千円	漂着ごみ＋漂流ごみ	497.3 t
2022 年度	40,347 千円	29,277 千円	漂着ごみ＋漂流ごみ	348.4 t
2023 年度	38,821 千円	28,673 千円	漂着ごみ＋漂流ごみ	438.4 t
2024 年度	43,492 千円	32,039 千円	漂着ごみ＋漂流ごみ	366.4 t
2025 年度	44,275 千円	29,115 千円	漂着ごみ＋漂流ごみ	371.7 t

※2025 年度実績は 12 月末時点速報値

2 発生抑制に関する取組

(1) 市町村が実施する発生抑制対策事業への補助

環境省の地域環境保全対策費補助金の海岸漂着物等地域対策推進事業を用いて、西尾市による名古屋芸術大学の学生が佐久島の海岸清掃で集めた漂着ゴミなどでアート作品を製作・発表し、海洋ごみの削減を啓発するなどの費用に対し、補助金を交付し、発生抑制対策を推進した。

(2) 海洋ごみバスツアーの開催 【資料 1 - 3】

海洋ごみ問題が内陸に住む人にも密接に関係していることについて楽しく学べる「海洋ごみを楽しく学ぼう！バスツアー」を開催した。バスツアーでは、星越海岸（蒲郡市）で漂着物を収集し観察するビーチコーミングを実施したほか、渚の交番 UMICAN（ラグーナテンボス内）にて、集めた海洋ごみを使ったビンゴゲームやマイクロプラスチックの観察等を体験した。

- ア 日時 9月23日（土）午前9時15分から午後3時30分まで
- イ 対象 県内在住の小中学生（小学3年生以上）とその保護者
- ウ 参加者数 33人（大人16人、子ども17人）

エ ツアー概要

<program. 01>ビーチコーミングで海岸漂着物を探そう！

<program. 02>海洋ごみビンゴゲームで楽しく学ぼう！

<program. 03>

選べるプログラム：A マイクロプラスチックを万華鏡に変身させよう！

選べるプログラム：B マイクロプラスチックを調べてみよう！



ビーチコーミングの様子①



ビーチコーミングの様子②



マイクロプラスチック万華鏡づくりの様子



マイクロプラスチック分析体験の様子

(3) 海ごみゼロウィークへの参加

「海ごみゼロウィーク」にあわせ、海ごみ削減に向けた全国一斉清掃活動の実施を呼び掛けた。本県では県庁の庁舎周辺の清掃活動を行いこの取組へ参加、県内 43 市町村でも清掃活動を実施した。



2025年5月30日(金)
(県庁(庁舎)周辺の清掃活動の様子)

(4) 啓発資材の貸出 【資料1-4】

県内の中学校で実施された環境講座(総合的な学習時間)やあいち環境学習プラザでの環境学習に啓発資材を貸し出した。

(5) 出前講座の実施

愛知県立明和高校附属中学校、西尾市立幡豆小学校及び JICA インドネシアプロジェクトにおいて、海洋ごみ対策等に関する講演を実施した。

(6) 環境イベント等へのブースの出展

環境学習プログラムの体験などを通じ、海洋ごみについて知ってもらうため、SDGs AICHI EXPO 2025 に出展したごみゼロ社会推進あいち県民会議ブースにおいて、普及啓発活動を実施した。

ブースでは、環境学習プログラム（カードゲーム）体験の実施、啓発パネルや海ごみの実物サンプル等を展示した。

ブース出展の状況



2025年10月3日（金）～4日（土）
（Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場））

(7) 「あいちプラごみ無くし隊」の活動について【資料1ー5】

プラスチックごみ削減の取組を推進するため、相撲芸人でごみ拾い活動家のあかつ氏を隊長、県内在住の学生、社会人等を隊員とする「あいちプラごみ無くし隊」を結成し、清掃活動やプラスチックの利用を減らす取組を体験した上で、その活動を SNS 等で発信する事業を実施した。

藤前干潟周辺の漂着物に係るごみ拾い活動では、プラスチックごみの現況を確認した。



2025年10月18日（土）
（「25 秋の藤前干潟クリーン大作戦！」への参加）

3 漂着ごみ組成調査の実施 【資料1-6】

海岸漂着ごみの組成及び量並びにこれらの経年変化を把握し、漂着ごみの実態把握及び今後の漂着ごみ発生抑制対策を効果的に実施するため、伊勢湾、三河湾及び遠州灘の海岸各1地点において、2020年度から漂着ごみの組成調査を継続実施した。

なお、調査結果はWeb上で公開している。

(<https://kankyojoho.pref.aichi.jp/kaigan/composition.html>)



(1) 調査地点 (調査実施日)

- ①伊勢湾 こすがや 小鈴谷周辺 (11月17日)
- ②三河湾 かたはら 形原周辺 (11月18日)
- ③遠州灘 にしななね 西七根周辺 (11月19日)



(2) 調査方法

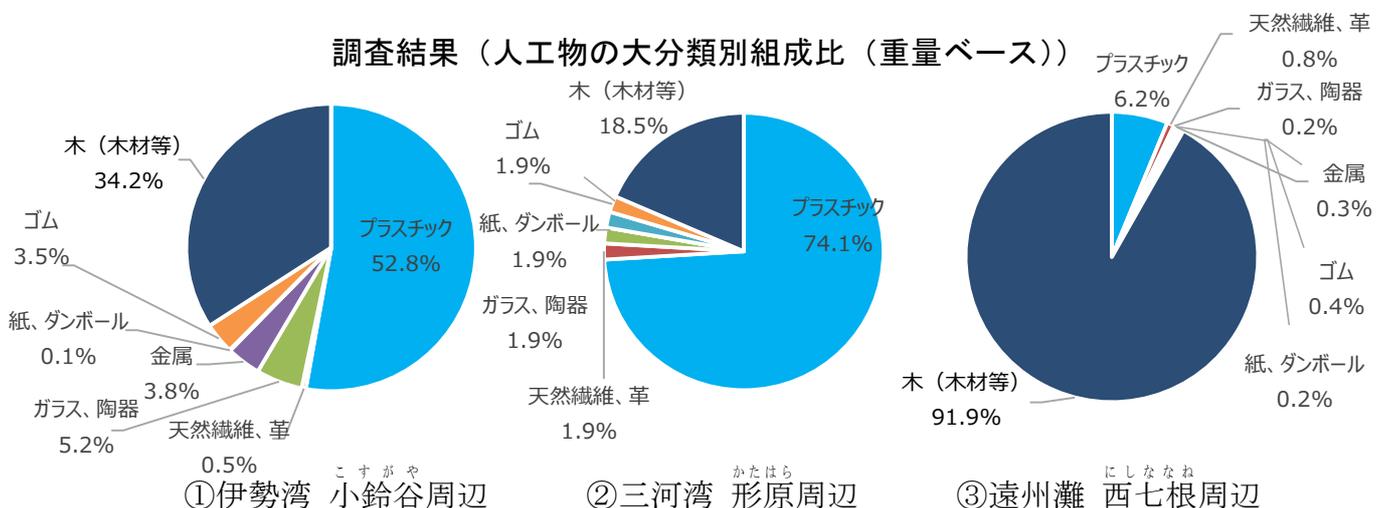
「地方公共団体向け漂着ごみ組成調査ガイドライン」(環境省)に準ずる。

(3) 調査結果

調査結果 (2分類別組成比 (重量ベース))



調査結果 (人工物の大分類別組成比 (重量ベース))



4 河川マイクロプラスチック調査の実施 【資料1-7】

海岸漂着物処理推進法第22条において、「国及び地方自治体は、海岸漂着物等の発生の抑制を図るため必要な施策を効果的に推進するため、定期的に、海岸漂着物等の発生の状況及び原因に関する調査を行うよう努めなければならない。」とされ、これまで本県では河川ごみ実態調査や漂着ごみ組成調査を行ってきた。

2025年度には、マイクロプラスチックの海洋環境等への影響が懸念されていることを鑑み、陸域から海域への主な流出経路である河川を対象に河川中のマイクロプラスチックの分布実態を把握することを目的とした調査を実施した。

5 岐阜県、三重県及び名古屋市との連携事業の実施

(1) 伊勢湾流域圏の一斉清掃 【資料1-8】

三県一市が連携し、2025年9月20日～11月30日を一斉清掃の期間として、県民や民間団体等に対して自主的な清掃活動の実施や清掃イベントの参加について呼びかけた。



(https://kankyojoho.pref.aichi.jp/kaigan/we_can_do.html)

(2) 清掃団体との連携・情報発信

既存の団体が実施する清掃イベントにおいて、三県一市が連携し、参加者に対して、伊勢湾の海洋ごみ問題の現状や広域連携の取組等について発信した。

※「25秋の藤前干潟クリーン大作戦」では、上記(1)の一斉清掃に関するチラシを参加者に配布した。



連携した清掃イベントの様子（藤前干潟クリーン大作戦）

(3) 伊勢湾流域圏海洋ごみ対策推進広域計画冊子の作成

2024年3月に策定した「伊勢湾流域圏海洋ごみ対策推進広域計画」の冊子を作成し、市町村等に配布した。